

令和元年8月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和元年8月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

アジアリーグアイスホッケーの2019～2020年シーズンの日程が発表され、八戸市を活動拠点としている「東北フリーブレイズ」は、8月31日の開幕戦（ホーム）で王子イーグルスと対戦することになりました。

今季は、日本の4チームのほか、韓国から2チーム、ロシアから1チームの計7チームが参加し、レギュラーリーグは6回戦総当たり（1チーム36試合、うちホーム戦は18試合）で来年2月まで実施されます。

みなさま、ぜひ地元スポーツチームの応援をよろしくお願いいたします。

◆東北フリーブレイズの詳細はこちらをご覧ください（チームホームページ）

<https://www.tohokufreeblades.com/>

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

### 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 8月号 レポート

令和元年7月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	YSアリーナ八戸こけら落とし公演 出演者出そろう
(2)	水産科学館マリエントで「JAMSTEC深海展」開催
(3)	八戸市博物館 市制施行90周年記念特別展「八戸90年の歩み」開催
(4)	YSアリーナ八戸で整氷試験
(5)	是川縄文館 特別展「北の縄文世界ー北海道・北東北の縄文遺跡群ー」始まる

## 【産業】

記事	概要
(6)	三菱・王子の製紙連合 家庭紙八戸工場完成
(7)	八戸酒類の日本酒を使用したせつけん開発
(8)	八戸ワシントンホテル リオ・コンサルティングに経営権譲渡
(9)	八戸製氷冷蔵が「िकासミサイダー」開発 ～どす黒い清涼感～
(10)	VISITはちのへ 環境省と国立公園パートナーシップを締結
(11)	VISITはちのへ 「シェアサイクル」実証実験開始

## 【地域】

記事	概要
(12)	「八戸の銭湯」存廃の岐路に
(13)	“買い物難民”地域で解決 「是川新鮮あおぞら市」開催
(14)	八戸水産高実習船で海洋教室開催 釣りや操舵体験に大興奮
(15)	八戸伝統野菜の「糠塚きゅうり」給食で“大人の味”試食
(16)	夏の風物詩「小中野新丁夜店」開催

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	「南部昔コ語り部養成講座」始まる ～広がる南部弁の輪～
(18)	長者山「森のおとぎ会」開かれる ～ようこそ童話の世界へ～
(19)	八学光星 2年連続甲子園出場へ
(20)	スポーツライミング 湊小6年の関川さん 国内大会で優勝
(21)	南郷サマージャズフェスティバル ～30回の節目 盛大に～
(22)	縄文遺跡群 ユネスコ世界文化遺産推薦候補に

【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>YSアリーナ八戸こけら落とし公演 出演者出そろ</b></p> <p>八戸市立屋内スケート場「YSアリーナ八戸」の完成を記念したこけら落とし公演として、8月24日に開催される音楽フェスティバルの最終出演者が発表され、音楽プロデューサーとしても活躍するDJのTOWA TEIさんが追加され、全6組が出そろった。そのほかの出演者は、高橋幸宏さん、ゴスペラーズ、槇原敬之さん、きゃりーぱみゅぱみゅさん、コーネリアス。また、当日会場では毎週日曜日に市内で開催されている館鼻岸壁朝市によるグルメブースが登場。地元なじみの“フェス飯”でイベントをさらに盛り上げる。</p>
(2)	<p><b>水産科学館マリエントで「JAMSTEC深海展」開催</b></p> <p>海洋研究開発機構（JAMSTEC）の貴重な収蔵品や深海生物を紹介する「JAMSTEC深海展」が7月6日から9月30日まで、八戸市水産科学館マリエントで開催されている。八戸市の市制施行90周年記念事業の一環で、9月23日にJAMSTEC所有の有人潜水調査船「しんかい6500」と支援母船「よすか」が一般公開されることから、深海展は、この公開に合わせて企画された。館内では、潜水調査船の精巧な模型のほか、深海生物の標本と写真パネルを展示。水槽展示室では、オオグソクムシなど7種類の深海生物の実物を紹介している。</p>
(3)	<p><b>八戸市博物館 市制施行90周年記念特別展「八戸90年の歩み」開催</b></p> <p>八戸市博物館で、市制施行90周年記念特別展「八戸90年の歩み」が7月13日から8月25日まで開催されている。市誕生当日の新聞記事や長根公園にあった遊園地の配置図、蕪島が橋でつながっていた頃に画家七尾英鳳が描いた「鮫浦風景図」、昭和八戸の写真など、多角的な視点で90年の歩みを紹介している。また、昭和八戸の風景を合成して、タイムスリップしたかのような写真が撮れたり、教科書や写真から復元された昭和の子ども服を実際に着ることができるなど、見るだけでなく体験ができるコーナーもある。</p>
(4)	<p><b>YSアリーナ八戸で整氷試験</b></p> <p>9月29日に供用開始予定の八戸市立屋内スケート場「YSアリーナ八戸」で整氷試験が行われた。整氷試験はリンクの床部分が零下5度となった7月10日にスタートし、7月19日までに全面が氷に覆われた。19日は、八戸学院大や八戸西高、八学光星高などの選手約30人が初滑り。一步一步を踏み締めながら、リンクからの景色や氷の感触をチェックした。7月27日まで試験が行われ、以降は氷を溶かす作業を試行し、8月24日に公演される音楽フェスティバルの準備に入った。</p>
(5)	<p><b>是川縄文館 特別展「北の縄文世界—北海道・北東北の縄文遺跡群—」始まる</b></p> <p>八戸市埋蔵文化財センター「是川縄文館」で7月20日から9月8日まで、特別展「北の縄文世界—北海道・北東北の縄文遺跡群—」が開催されている。海獣や水鳥を表現したとみられる美々4遺跡（北海道）出土の動物形土製品や、是川中居遺跡の遮光器土偶をはじめとした重要文化財が今回の目玉の一つ。約200点の土偶や土器などが並び、1万年以上にわたって続いた縄文時代の文化や生活を垣間見ることができる。開館時間は午前9時～午後5時。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p><b>三菱・王子の製紙連合 家庭紙八戸工場完成</b></p> <p>三菱製紙と王子ホールディングスの子会社「王子ネピア」が、三菱製紙八戸工場内に新設した家庭紙製造工場の竣工式が7月8日、現地で開かれた。新設した工場の面積は1万2157平方メートル。年間生産量は約1万8千トンを見込む。製造品は三菱製紙、王子ネピアそれぞれの商品となり、東北地方を主体に供給される。三菱製紙は、新たに「ルクレ」のブランドを立ち上げ、8月以降に“八戸発”の製品として市場デビューする見通しである。</p>
(7)	<p><b>八戸酒類の日本酒を使用したせっけん開発</b></p> <p>せっけんの販売などを手掛ける八戸市の「せっけんの贈り物」（豊川友美代表）が、八戸酒類が作った日本酒や酒かすを使った商品を開発した。日本酒を使用した「八鶴酒蔵生石鹸」（税込み3千円）と、酒かすを配合した「八鶴酒蔵吟石鹸」（2500円）の2種類。美白や保湿の成分が含まれており、ほのかな日本酒の香りも楽しめるのが特長。カネイリミュージアムショップや、ラピアなどで販売され、「せっけんの贈り物」や八戸酒類のオンラインショップでも購入できる。</p>
(8)	<p><b>八戸ワシントンホテル リオ・コンサルティングに経営権譲渡</b></p> <p>「八戸ワシントンホテル」が、資産運用コンサルティング会社「リオ・コンサルティング」（東京）に経営権と不動産を譲渡した。十三日町の旧八戸第1ワシントンホテルは耐震工事中で、来年1月にリオグループのホテルとして新たにオープンする予定。現在、徒士町で稼働中のワシントンホテル（旧第2ホテル）は藤田観光（東京）とのフランチャイズ契約が満了する今年9月末で営業を終了し、10月からリオグループのホテルとして再スタートを切る。開業40年を迎えた八戸ワシントンという名称はなくなるが、メインストリートに面したホテルは受け継がれることになる。</p>
(9)	<p><b>八戸製氷冷蔵が「िकासミサイダー」開発 ～どす黒い清涼感～</b></p> <p>八戸製氷冷蔵は7月27日に、イカ墨で色付けした「िकासミサイダー」を発売した。「どす黒い清涼感」をコンセプトに今年3月ごろから開発に着手。イカ墨の風味を出し過ぎないように試行錯誤を重ね、商品化にこぎ着けた。色と味のギャップを楽しめる商品で、見た目とは裏腹に、飲むと口に清涼感が広がるサイダーに仕上がっている。1本250ミリリットルで、価格は280円（税別）。2本セット（箱入り）は690円。同社や八食センター、はっちのカネイリミュージアムショップ、浜市場・みなととなどで販売している。</p>
(10)	<p><b>VISITはちのへ 環境省と国立公園パートナーシップを締結</b></p> <p>環境省は7月26日、国立公園の美しい景観をはじめとする魅力を国内外に発信するため、八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）の「VISIT（ビジット）はちのへ」と「国立公園オフィシャルパートナーシップ」を締結した。パートナーシップ締結により、三陸復興国立公園を圏域に抱えるVISITはちのへは、環境省が作成した動画や画像を観光プロモーションに活用する他、「朝ヨガ」といったアクティビティを情報発信するウェブサイトでパートナーのロゴマークを使用できる。東北地方の団体・企業との締結は初めてとなる。</p>

(11)	<p><b>VISITはちのへ「シェアサイクル」実証実験開始</b></p> <p>八戸圏域版DMO「VISITはちのへ」は7月29日、観光客の2次交通対策として、自転車を利用する「シェアサイクル」の実証実験を始めた。八戸駅東口広場、三春屋、八食センターの八戸市内3カ所に専用駐輪場の「ポート」を設置。スマートフォンなどのアプリに登録して使用する電動アシスト自転車で、時間を問わずに乗れるのが特長。来年3月末まで効果を検証し、4月からの本格稼働を目指す。利用料金は15分ごとに80円、24時間で最大1500円。シェアサイクルのシステムは、ソフトバンク系列の企業が展開する「ハローサイクリング」。現在、全国197市町村に拡大し、青森県内では初の導入となった。</p>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【地域】

記事	概要
(12)	<p><b>「八戸の銭湯」存廃の岐路に</b></p> <p>朝風呂など八戸市独自の文化として地域に根付いてきた銭湯だが、近年休廃業が相次ぎ、岐路に立たされている。2001年に約60軒を数えた公衆浴場は、2018年にはほぼ半数の29軒にまで減少。追い打ちを掛けるように今年6月には市中心街近くの1軒が閉店し、さらに住宅街の1軒が7月中の廃業を決めた。家庭風呂の普及や施設の老朽化、後継者不足などで“銭湯の街・八戸”は危機にひんしている。</p>
(13)	<p><b>“買い物難民”地域で解決 「是川新鮮あおぞら市」開催</b></p> <p>八戸市内でも高齢化率が高く、近くにスーパーマーケットがないことから「買い物難民」が多いとされる是川地区。住民たちはバスやタクシーなどの公共交通機関や自家用車を使って地区外に買い物に出掛けるなど、特に高齢者にとっては負担が大きい状況となっていた。そのような中、地域の課題を地元住民が自らの手で解決しようと、地元農家の野菜や果物、コメなどを販売する定期市「是川新鮮あおぞら市」を7月12日からスタートさせた。毎週金曜から日曜までの3日間開催することで定着を図りながら、高齢者から子どもまで誰もが明るく暮らせる、にぎわいある地域を目指す。</p>
(14)	<p><b>八戸水産高実習船で海洋教室開催 釣りや操舵体験に大興奮</b></p> <p>青森県立八戸水産高は7月6日、同校の実習船「青森丸」(660トン)を活用し、小学生とその親を対象とした海洋教室を開いた。海や船に対する理解を深めてもらう目的で毎年開催しており、船内の見学や操舵体験など行っている。今年は初めて「釣り」を加え、参加者は底一本釣りに挑戦。子どもが恐る恐る釣り上げたカレイに、引率の母親は「煮付けにする」と喜んでいた。市内7校から11組計24人が参加し、楽しみながら水産業に理解を深めた。</p>
(15)	<p><b>八戸伝統野菜の「糠塚きゅうり」給食で“大人の味”試食</b></p> <p>八戸市沢里の長者幼稚園が今年、市の八戸伝統野菜に指定されている「糠塚きゅうり」の栽培に取り組んでいる。同園は食育や自然に触れてもらう目的で、敷地内の園地や市農業経営振興センターでの農作業体験を取り入れている。5月に園地での苗の植え付け体験を行った後、同センターの指導を受けながら栽培してきた。7月16日には園児による収穫と、給食での試食が行われ、子どもたちが地元ならではの“大人の味”に親しんだ。</p>

(16)	<p><b>夏の風物詩「小中野新丁夜店」開催</b></p> <p>八戸市小中野の新丁通りで7月26日から28日まで、恒例の「小中野新丁夜店」が開催された。夜店は100年以上の歴史がある夏の風物詩。26日の青森県内は各地で気温が上昇し、日中の最高気温は八戸で34.3度と今年の最高気温を観測した。むし暑さが残る午後6時から新丁通りが歩行者天国となり、沿道には唐揚げや焼きそば、金魚すくいなどの出店約40店がずらりと並んだ。大勢の市民がちょうちんで彩られた出店を巡り、夏の夜を楽しんだ。</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p><b>「南部昔コ語り部養成講座」始まる ～広がる南部弁の輪～</b></p> <p>今年で7年目となる「南部昔コ語り部養成講座」が7月4日、八戸市公民館で始まった。八戸童話会の榎谷伸夫会長と、会員の佐々木和子さんが講師を務め、昼、夜の部合わせて約50人が受講。今回は、榎谷会長が南部弁で作った川柳、短歌、詩を課題として初めて取り上げ、家庭内の“あるある”や、昭和の昔懐かしい風景をコミカルに描いた作品に、受講者はくすりと笑いながら音読していた。講座は9月まで計5回行う。受講者の一部は学びの成果を、12月7日に実施する「南部弁の日」のイベントで披露する。</p>
(18)	<p><b>長者山「森のおとぎ会」開かれる ～ようこそ童話の世界へ～</b></p> <p>長者山新羅神社境内で恒例の「森のおとぎ会」が7月20日に開かれた。八戸童話会（榎谷伸夫会長）が主催。1924年の八戸大火で焼け出された子どもたちを励まそうと始まり、今年で96回目となる。20日は早朝、境内の「おとぎの桜」と親しまれている木の下で、榎谷会長らが、身ぶり手ぶりを交えながら南部弁で童話を披露した。集まった親子ら約100人が童話の語り聞かせを楽しんだ。</p>
(19)	<p><b>八学光星 2年連続甲子園出場へ</b></p> <p>第101回全国高校野球選手権青森大会は7月23日、弘前市はるか夢球場で八学光星と弘学聖愛の決勝が行われた。令和初の夏の甲子園出場を目指す八学光星を応援しようと、一塁側スタンドにはチームメート、在校生や保護者らが大勢集結。いきなり2本塁打を含めて大量8点を挙げた初回からボルテージは最高潮に達し、その後も試合終了の瞬間まで熱い声援を送り続けた。その結果、八学光星が弘学聖愛を12-4と圧倒し、夏は2年連続10度目、春を含めて通算20度目の甲子園出場を決めた。</p>
(20)	<p><b>スポーツライミング 湊小6年の関川さん 国内大会で優勝</b></p> <p>スポーツライミングに取り組む八戸市立湊小6年の関川愛音（めろでい）さんが、6月15、16日に東京都内で開かれたボルダリングの大会「アディダス・ロックスター・トーキョー2019」の一般女子部門で優勝した。同部門には、全国から約30人が参加。関川さんは最年少ながら予選を1位で通過。決勝は、課題を制限時間内に登り、成功するまでに要したチャレンジ回数などで競い、最終課題を最初の挑戦でクリアした関川さんが栄冠を手にした。</p>

<p>(21)</p>	<p><b>南郷サマージャズフェスティバル ～30回の節目 盛大に～</b></p> <p>東北最大級の野外ジャズイベント「南郷サマージャズフェスティバル」が7月27日、八戸市南郷のカッコの森エコーランドで開かれた。かつて八戸を活動拠点としていた世界的ピアニストのデビッド・マシューズさんは、同市出身のトランペット奏者・類家心平さんと共に登場。今回だけのスペシャル編成に聴衆も熱狂し、大きな歓声と拍手が響いた。トリを務めたのは「渡辺貞夫クインテット2019」。ライトアップされたステージ上で、上質な音色を響かせると盛り上がりは頂点に達した。30回記念となった今回も、国内外から多数のトッププレイヤーが集結し、見事な即興演奏や迫力のサウンドで節目を盛大に祝った。</p>
<p>(22)</p>	<p><b>縄文遺跡群 ユネスコ世界文化遺産推薦候補に</b></p> <p>2021年の世界文化遺産登録に向けた国連教育科学文化機関（ユネスコ）への推薦候補について、国の文化審議会は7月30日、文部科学省で専門部会を開き、青森など4道県が推す「北海道・北東北の縄文遺跡群」を選定した。是川石器時代遺跡がある八戸市の是川縄文館では同日、国内推薦決定を祝う看板が設置され、集まったボランティアら約40人が万歳で祝福した。政府が来年2月1日までに閣議了解を経て推薦書を提出する見通しで、2013年から7度目の挑戦で、4道県の悲願達成へ大きく近づいた。</p>